



関市板取の「杉」



■会 長 加藤照彦 ■副会長 西田泰幸 ■幹 事 伊佐治啓司



関市民 1000 人が参加して創りあげた
シャインカーベシニアード『関二鳥』

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーテーマ

『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』 SERVE TO CHANGE LIVES

RI 会長：シェカール・メータ

関ロータリークラブ会長テーマ

『和衷協同』 56 代会長：加藤照彦



本日のプログラム

第 2623 回例会 2022 年 3 月 11 日 (金)

「55 周年記念式典のリハーサル」

場所：せきてらす

前例会の記録

第 2622 回例会 3 月 1 日 (火) 12:30

「地域の憩いの場として人と人をつなぐお寺をめぐらして」

関善光寺 住職 佐藤舜海様

※オンライン例会

◆開会点鐘

◆会長挨拶



本日は、関善光寺の御住職 佐藤舜海様にお越しいただいております。私達は時代の流れもあって、仏壇の仏様やお墓でご先祖様に手を合わせる事が少なくなりました。佐藤住職は、少しでも多くの方が仏縁に触れるように色々な手立てや法弁で布教されています。

後程、今日は卓話ではなく法話を頂きます。宜しくお願ひ致します。

さて、今日 3 月 1 日は至る所で卒業式が行われています。西田副会長も娘さんの卒業式で遅れるそうなので、林昇次期副会長にご無理をお願いしました。林さん宜しくお願ひします。西田副会長は、今頃娘さんが立派に成長された姿を見て、幼かった頃を思い出し涙が溢れているかもしれません。月日の経過や時間の推移は、人間や環境にも色々な変化をもたらすものです。変化と言え、落語に『テレスコ』という噺があります。昔、浜辺で珍しい魚が捕れました。漁師たちにも名前がわかりません。奉行所の役人もわかりません。そこで奉行が、「この珍魚の名前を知っている者は申し出るように」とお触れを出

しました。数日後、ある男が「恐れながら・・・」と現れ、「魚の名前はテレスコと申します」と言いました。誰も正しい名前を知らないで、奉行はその男に褒美を与えました。その後、奉行所でその魚を干して、すっかり形が変わってしまった魚に、再び「この珍魚の名前を知っている者は申し出るように」とお触れを出すと、同じ男が現れ「これはステレンキョウと申します」と言いました。これを聞いた奉行は怒って、「お前がステレンキョウだといった魚は、テレスコという魚を干物にしたものだ。お上を謀る不届き者め！！」と、男を打ち首にしようとなりました。打ち首の前に、男は今生の別れと妻子との面会を許されました。男は息子に最後の言葉を残しました。「いいか、お前。どんなことがあってもイカの干したものをスルメと言ってはいかんぞ。打ち首になるからな」と。長々と落語を引用しましたが、人間も状況の変化や事態の推移によって名称が変わってくるということです。例えば今日の卒業式です。幼稚園から小学校に入る子どもは、園児から児童・生徒に、高校や大学を卒業し社会へ巣立っていく人は、学生から社会人・組織人に、夫婦だけの家庭に子供が生まれれば、父親・母親になります。一つの物事の終わりは、次の始まりになります。そして、より高次元の立場や肩書、名称を持つことは新しい自覚と責任を感じ、それに伴う考え方・行動をする必要が生じるということです。今日は卒業式ですが、卒業とは全ての終了ではなく、修了であるということで色々とお申し上げました。

◆委員会報告

◎ニコボックス委員会 尾崎嘉彦会員

会長・副会長・幹事の皆さん・・・本日のお客様、関善光寺住職佐藤舜海様、本日はようこそ関 RC にいらして下さいました。暖かい卓話を楽しみにしております。新入会員の奥田茂貴さん、本日は入会式おめでとう御座います。今後は関 RC 会員として楽しくクラブ活動いたしましょう。米山奨学生の王煜妍さん、アットという間に 1 年が過ぎてしまいました。コ

コロナであまり一緒に活動できなかった事が残念でしたが今後の活躍を期待しております。新事務局員の五島真由美さん、本日から関 RC の仲間として宜しくお願い致します。次年度副会長の林昇さん、本日はピンチヒッター宜しくお願い致します。

◆入会式 新会員奥田茂貴



会長より、「四つのテスト」と会員章を贈呈

◆米山奨学生挨拶 王煜妍



皆さんこんにちは。今日で最後の例会になります。あっという間に1年間が過ぎ、長く感じますが、短くも感じます。この1年間本当に大変お世話になりました。ありがとうございます。特にカウンセラーの東谷さんはいつも親切にしてくださ

いまして、家まで招いていただいて、奥さんともたくさんお話しました。西田さんもいつも優しく接してくださいまして、分からないことがあったらいつも丁寧に説明してくださいまして。また、事務局の伊佐地さんもいつもいつも例会のことを詳しく説明してくださいまして、会うたびにいつも私の話に付き合ってくださいました。他にも会長の加藤さん、中国のことがお詳しい堀部さん、有名なはさみを作っている木村さん、東谷さんのお友達の杉浦さん、アニメの話をしてくださる秋柝さん、あその他の皆さんもすごく親切にしてくださいまして、本当にありがとうございました。これから千葉大学に進学しますが、米山奨学生でなくなっても、やはり関ロータリークラブの皆さんとの繋がりを続けたいと思います。例えば岐阜に戻る時にまたこちらへ来て、皆さんとお話しできたらと思います。ありがとうございました。

◆「地域の憩いの場として

人と人をつなぐお寺をめざして」

関善光寺 住職 佐藤舜海様

関善光寺では地域の憩いの場として、人と人をつなぐお寺をめざして「関善光寺ふれあいプロジェクト」を平成23年から始めました。そのことについてお話させていただきたいと思います。関善光寺の正式な寺名は宗休寺です。善光寺堂があることから「関の善光寺さん」として昔から市民の方に親しまれておりました。しかし、時代が変わり世代交代が



進み、お寺から足が遠のいてしまったことで、「関の善光寺さん」が地域の方の心から薄れてしまっていました。私が住職になった時、境内に誰もいない寂しいお寺でした。そして特に

暇なお寺で何をやっていいのかわからない、相談相手も誰もいないということで非常に大変な状況でのスタートでした。そのようなことから、幅広い世代が交流できるお寺、地域とつながるお寺となり「関の善光寺さん」として再び親しんでいただけることを願って地域の憩いの場として、人と人をつなぐお寺をめざしての活動がスタートいたしました。地域の方々を対象に行った行事や活動には、お寺の境内でビートルズのコピーバンドによるコンサートを開催したり、林間学校や写生大会、餅つき大会、フリーマーケットやマルシェなどを開催してまいりました。その中でも1番の人气があった行事が関善光寺林間学校です。この行事は市内の小学生を対象に1泊2日でおこないました。学校や学年が違う子供たちを班に分け、最初はぎこちない様子の子供たちも次第に打ち解け、学校や学年といった垣根を越えて交流する姿が自然とみられるようになります。親御様の中には、小さいころに当寺院で遊んだ思い出がある方も多くいらっしゃり「自分の子供の頃を思い出します」と懐かしむ声も聞かれました。林間学校を主催するのは、平成22年に地元住民の協力により発足した「関善光寺癒しの会」です。林間学校での食事や生活面をサポートするのはもちろん、地域のNPO法人やボランティア団体に協力を依頼し、林間学校で子供たちに様々な教室を行います。これまでには、科学実験教室や昆虫観察教室、太鼓の演奏会をおこないました。座禅体験をしたり、境内を皆で掃除をしたり、お寺の修行を体験してもらいました。過去にはボーイスカウトの方々や、市内大学のボランティアサークルのメンバーにスタッフとして参加していただいたりしました。林間学校に参加した子供たちからは「中学生になったら自分もスタッフとして参加したい」という嬉しい声も聞かれました。コロナ渦ということでここ2年ほどは、これらの行事は行えておりませんが、これからも今後も幅広い世代が交流できるお寺、地域とつながるお寺となり、「関の善光寺さん」としてこれからも、そして今以上に親しんでいただけるように活動を行っていきたく思っております。

◆幹事報告

◎次年度委員会構成をファックスまたはメールで送付

◎例会終了後「55周年委員会」開催

次例会のご案内 3月12日(土)9:00

「55周年記念式典」

場所：せきてらす 3/15(火)の例会変更